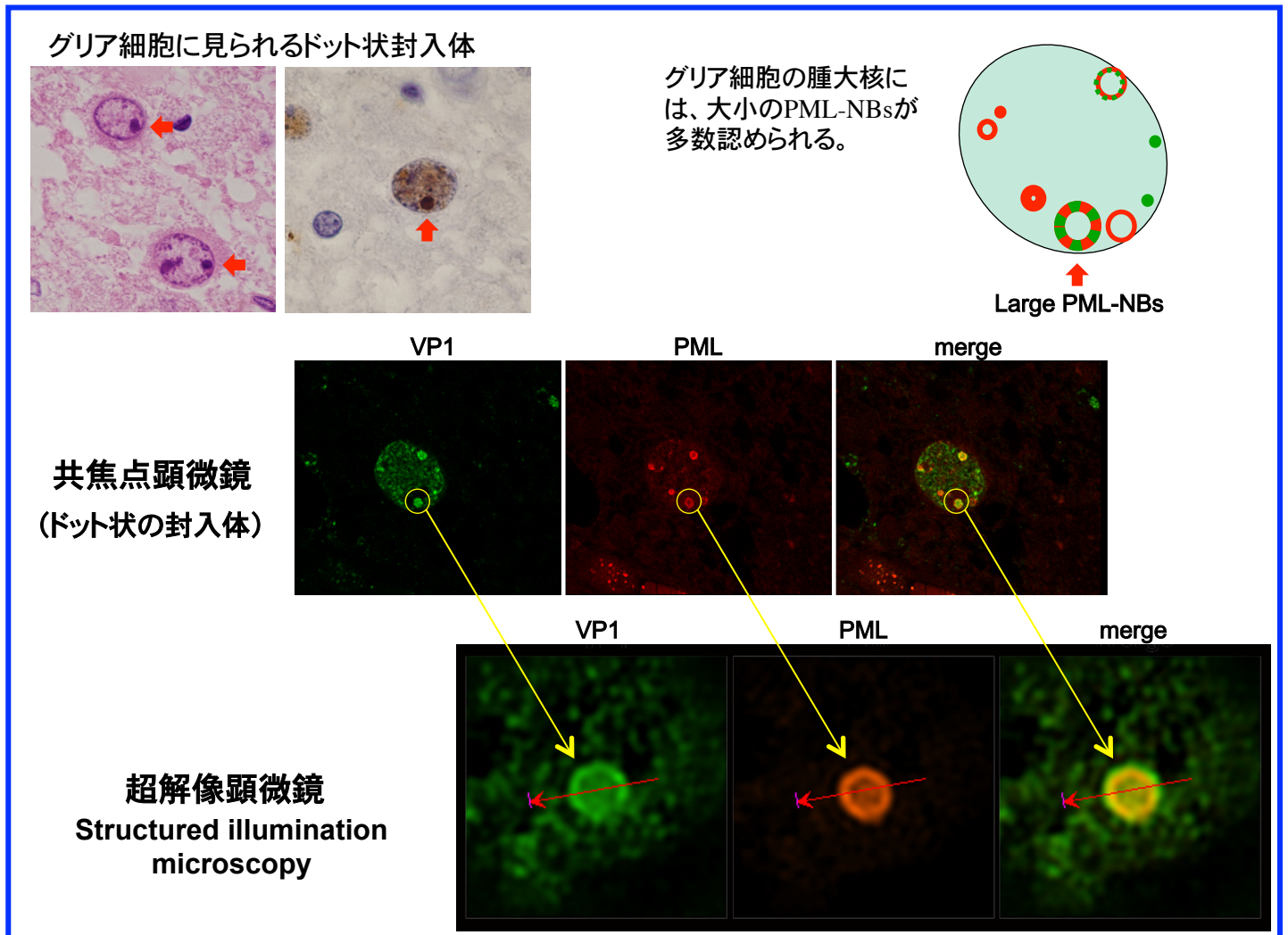


## 進行性多巣性白質脳症のドット状封入体

研究分担者: 杏林大学医学部病理学教室 宍戸-原 由紀子



### 解 説

1. 進行性多巣性白質脳症はJCウイルス感染による脱髄疾患である。近年、感染したoligodendrogliaの腫大核には、核全体を占める封入体(full inclusion)に加えて、ドット状の封入体(dot-shaped inclusion)を有する細胞が多数あることが明らかになった。
2. JCウイルスは、PML-NBsと呼ばれる核内構造で子ウイルスを産生し、ドット状の封入体を形成する。
3. 超解像顕微鏡による解析により、ドット状封入体は球状殻の形態をしていることが明らかになった。